

# 牛久：学校周辺に見る自然

第41号 ひたち野西近隣公園

2011年10月1日発行

## ＜ 残暑<sup>ざんしよ</sup>厳しい水辺公園を歩く ～その1. トンボ＞

残暑<sup>ざんしよ</sup>厳しい9/13、水辺公園を歩きました。アブラゼミの蒸し暑い<sup>むしあつい</sup>声でスタートしましたが、ギンヤンマの連結<sup>れんけつさんらん</sup>産卵や、「空飛ぶ宝石」とも呼ばれるカワセミに、いつしか暑さも忘れ、帰りぎわには、北上中のチョウ、ツマグロヒョウモンの交尾<sup>こうび</sup>も見られました。いろいろとたくさんの生きものたちが登場してくれたので、何号かに分けて、ご紹介<sup>しょうかい</sup>しようと思います。今回は、トンボ。木々の紅葉<sup>こうよう</sup>にはまだ早いですが、赤トンボの仲間は、だんだんと赤く色づいてきました。



左から、ショウジョウトンボの雄、ナツアカネの雄、ノシメトンボ

秋でなくても、いつも赤いのがショウジョウトンボの雄（写真左）。頭のとっぺんから尾の先まで、まっ赤っかです。細い水草の先にとまっているのをよく見かけます。

夏から見かけますが、秋になると顔までまっ赤になるのがナツアカネの雄（写真中）。雌はまっ赤にはならないので、アキアカネなどとは胸のもようで区別します（22年度44号を参考に）。

そして、夏から秋に一番よく目にするのが、ノシメトンボでしょう（写真右）。翅<sup>はね</sup>のふちに大きな黒褐色<sup>こっかつしよく</sup>のもようがあるので、他の赤トンボの仲間と区別できます。トンボは暑いと逆立ちして直射を避けるものがあるといわれますが、私の観察したところでは、ショウジョウトンボはいつも平らにとまっていて、ナツアカネは写真の程度、ノシメトンボはほぼ完全な逆立ち状態にまでなるようです。あれで疲れ<sup>つかれ</sup>ないのかなあとと思いますが、いかがでしょう？



アジイトトンボ（左：第9腹節が青い）とアオモンイトトンボ（右：第8腹節が青い）

さて、お次はよく似たイトトンボ2種です。どこが違うか分かりますか？ほとんどそっくりですが、尾のふちの水色に染まる位置が違います。腹部<sup>ふくぶ</sup>の前から数えて9番目（第9腹節<sup>ふくせつ</sup>）が青いのがアジイトトンボ、8番目（第8腹節）が青いのがアオモンイトトンボ。翅がだいたい第5腹節いっぱいまでなので、その後ろ何節目に青い部分があるか数えてもよいですね。それにしても、そっくりです。



この日もう1種類、イトトンボをみつけました(写真左)。が、名前が分かりません。クロイトトンボ雌か、モートンイトトンボ雌かな?と思いましたが、自信ありません。トンボに詳しい方がいらっしゃいましたら、ぜひ教えて下さい。



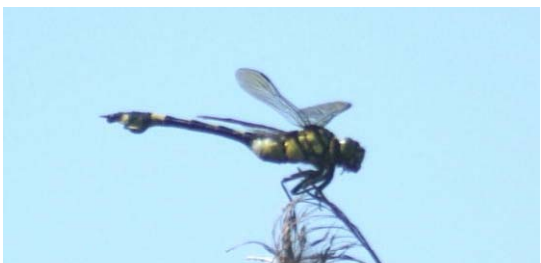
ギンヤンマの連結産卵。雄は腹部のつけ根に水色のもようがあり、その下側が銀白色をしているのでこの名がついた。

次は、以前から写真にとりたいたいと思っていた、ギンヤンマの連結産卵です。近くにいるときにはカメラをもってなかったりして、悔しい思いをしてきましたが、繁殖の時期なのででしょうか、産卵シーンや、連結しながら飛んでいる姿をよく見かけました。ギンヤンマは、雌単独で産卵していることもありますが、たいていはこうして、雄を前にして連結しながら、後ろの雌が水草に産卵するようです。



シオカラトンボは、春の終わりころから秋まで、長く見られるトンボですね。赤トンボとともに、日本を代表するトンボといえるかもしれません。この日は、翅がボロボロになって年老いた?シオカラトンボがとまっていた、そのすぐそばで、羽化したばかりなのか、見るからに若々しいのがじっとして草にぶらさがっていました。

← 若々しいシオカラトンボのおす。



こちら5月ころから長く見られますが、だいたい9月いっぱいまでですね。腹部のはしのはし、うちわのような突起が特徴で「団扇(うちわ)ヤンマ」。でもヤンマ科ではなく、サナエトンボ科の仲間です。【理科支援員 宮内】

← 草の先にとまり”なわばり”をはるウチワヤンマ。